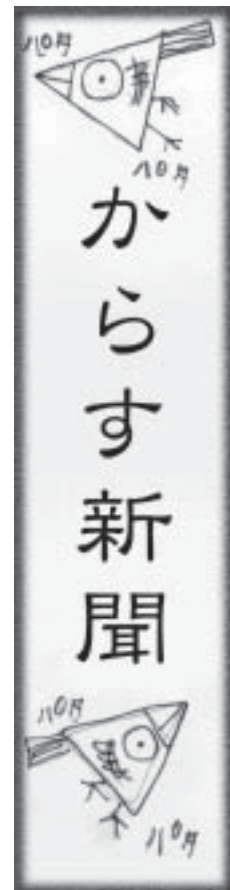


# 創建畑プロジェクト



ダンゴムシ、ミミズ、  
そして好気性菌が...

建物は紙の上には存在するのではなく、現在も過去も未来も環境とともにある。



第8巻第2号  
通巻第86号


発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015 からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせのE-mail : [colors@go-karasu.com](mailto:colors@go-karasu.com)

**今日の紙面から**

- 一画(かじろイノリフリー)
- 二画 Merry Andrew
- 三画(ロンケレポーター・番外編)
- A Fish I have in My Stomach
- 三画(語画)
- 同音異義略語



暫く振りにタイトな締め切りを抱えてしまった。ここで気合いを入れずにいつ気合いを入れるのだ。そうは思えず、何故か、良いアイデアが出てこなかったりすることもある。この辺り、力で解決できない苦しさがある。けれども、その力で解決できない苦しさ喜びでもある。ううむ、気の置き所が難しい。兎にも角にも確かなことは、そんなことをぼんやりと考えている間にも時計の針はびゅんびゅん進み、締め切りが近づいてくる。と。そんな具合に難渋すること数日間。結局は何とかなるものである。大したものだと自画自賛。何とかならなかったから、こんなことを言っているのだから、何とかならなかったらどうなるかもしれない。まあ、そうならなかったらどうなるか、そんな折には何か格別な言い訳でも考えますよ。

「幸せ」とは何ぞや、などということをおぼろげに前に話題にしたと思う。いくら自問しても明快な答えは出ない。これは「幸せ」に限ったことではなく、例えば、七歳の友人元康にでも判るように説明しようとする、判った気がいた概念の殆どがなかなか説明し難く、己の言語世界の不分明を思い知ることに

なる。自分で何とかできないんだから、他人様の意見を伺うに如くはない。幸い、うちには何だ彼んだと辞書の類はたくさん転がっておりましね。と、早速、あれこれと繰ってみたりしない。「幸せ」が何たるかを、私が納得できるように明確に定義しているものが見当たらないのである。当たり前だ。そもそも辞書とはそういうものなのである。不完全を前提にして成り立っているもの。これに関してあれこれと言いつべきことはあるけれど、また後日に譲るとして、今日はまたもや「幸せ」について。

締め切りに終われ、精神的に追い詰められてくると、思考が停滞しがちになる。アイデアが湧き出てこないところであらう。いや、堂々巡りの悪循環。そんな折には、足りない時間を切り裂いても、そこはそれ、休憩するが宜し。重要なことである。

先ずは珈琲を淹れる。香りや味を楽しみながら、短くて軽めの斬り耳傾ける。例えば、文楽の酢豆腐、三木助の「たがや」なんてところ。あるいは、インク調合。黒と緑を二対一で混ぜて……なんてことで嬉々とする。天気が良い

(最終面に続く)

からす新聞は××××が母体となって、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



## Merry Andrew

安藤 裕子

Cutting Edge/Avex、2006年、CTCR14454



安藤裕子って に似ているよね、と言う人がたくさんいる。そうである。Charaだの林檎だの、元ちとせや原田郁子だのと。ま、実際、ついつい思い浮かべたり、比較してしまったりしている自分があるのを否定はしない。それはそうなんだけれど、彼女の中にはまだまだもっともっと弾ける才能が眠っているように思えてならないのも事実である。もっとも、弾けることなく、そこそこの仕事をして、すこすことフェイド・アウトしていつてしまい、ああ、安藤裕子なんて人もいたよね、なんて具合に忘却の彼方に沈んでいつてしまう可能性だってあるのだからうけれど。

以前のアルバムから着々と良い方向に変化してきていると思うけれど、まだ物足りない。そこで、こんな提案をしたい。次作は、セルフ・プロデュースして大失敗に終わるってのが良いのではないかって。野心的な駄作のお陰で、多くのファンが去っていき、レコード会社や評論家からの期待も薄れ、開き直ったところから彼女の中に眠る本当の姿が出てくるんじゃないか、なんてことを妄想する次第。

きれいな才能で終わってほしくないな、とつくづく思う。  
ちよつと君らも聴いてみてくれたまえよ。どうかね。

(全六)



番外編

A fish I have in my stomach.

A fish

A Feeling, when you missed a chance to across the road.

In a moment of hesitation.

A fish, which I have in my stomach, is breathing still.

Need to be alone.

I ' ve got things to think about.

I hear something inside of me.

I hear something on the inside of me.

The traffic lights have turned green.

Has started moving about.

My father used to be a poet. He has one book published. When I was 20, he gave me the book. On a back of top cover, there was a message said " To S from Dad ". It was meant to give my brother who is seven years older. I turned my face up toward my dad. Then he said,

" Thought he wouldn ' t like it. "

In this book there is a line said " Surely, I have a newt in my stomach. " It was the last sentence of one poem. He wrote that in the way like a small child mumble. A newt, for a feeling you can ' t explain, for an action you can ' t explain. The line caught me for a while but I couldn ' t really understand the feeling of having a newt in my stomach. Suddenly, a few years later, I found that was a fish for me to have in my stomach.

<<http://go-karasu.com/data/fish.swf>>

# 同音異義略語

## homonym-abbreviation

新聞で耐震偽装関連の記事を読んでいたら、当たり前のように「GS」というのが注意書きなして出て来て、へえ、と思った。こんなと何度も見聞きしてきたから、それが例の欠陥マンションシリーズ「ブランド・ステージ」のことなのはおかしい。誰もそれをガソリン・スタンド(Gas Station)とは間違わないだろうし、ましてやグループ・サウンドズであるはずもない。とは言え「ブランド・ステージ」は流行り物だし一商品名だしで、世間的には程なく消えるだろう。しかし被害者など、個人的にはGS＝ブランド・ステージであり続ける人もいるはずで、たしかに同音異義語の解釈は実に個人的である。GSといえば、何よりトヨタの最高級車

ブランド「レクサス」の一車種を思い浮べる人だっているはずだ。試しに中学生に聞いてみたら、「わかんないけど、ゲーセン?」。なるほど、そういうものがある。たしかに色々あっていい。私も若い頃、GMといえばゼネラル・モーターズでもゼネラル・マネージャーでもなく、ギョードン・マツヤであった。ところでGの音が彼らにとってゲーであるのは、もちろんドイツ語ということではなく、間違いなく「HG＝ハード・ゲイ」の言葉である。一応まだ各校内を風靡中らしい。子供たちに聞けば、小学一年生から高校三年まで全員が彼と答えるし、小学校じゃ公立私立問わず、あちこちでフオーフオーやっちゃあ先生のお咎め(特に私立女子小)を食らっているとのこと。私にしてみれば、HGと言えばビテオテープとかの「ハイ・グレード」だったかなあ。いやしかし、例のハードゲイはビジュアル的にも強

印象なので、「君たちHGで他になんか思い付かない?」と他のアイデアを募ってみても、なかなか出て来ない。流行とは恐ろしいものである。それでも、そんな流行に流されるままだじゃいかんというわけで、実在してもしなくてもいいからと考えさせてみた(大体上記二つとも辞書に載るような認知された略語ではない)。結果、「HGはハグ＝hugの略!」など個人的なものもいくつか出て来て面白かった。なんか新鮮だったのは「水銀(hydrargyrum)」。元素記号! 理科とは離れて久しく、つぎり忘れていたが、こいつは個性とか流行とか以前の略語の王道だな。HG、調べてみると、いくつかある。キリスト教の三位一体の父と子と聖霊の御名において「の聖霊」はHoly Ghostでエイチジー。ロンドンで馬に乗ってる近衛騎兵はHorse Guardでエイチジー。(望月)

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。あなた一人で悩まないでください。

相談無料  
秘密厳守  
関西方面  
にも強い

**ストーカー  
バスター**

produced by  
**P.D.Agency**  
tora@pda.co.jp  
4-3-49-1, Suginami-ku,  
Tokyo 166-0015, JAPAN  
voice : +81-5347-9063  
facsimile : +81-5347-9064



(一面から続く)

れば、カメラを片手に表に出て、ぱしやりばしゃばしや。どれも、十分二十分、精々が三分のことなのだけれど、私にとっては細やかながら確かに「幸せ」な時間である。そして、気分新たに作業に戻る、と。実際のところ、気分転換を果たしたからといって、良いアイデアが浮かんでくるとは限らないけれど、同じ無を生み出すのなら、行き詰まった時間を過ごすよりは楽しい時間を過ごす方が良いことは誰の目にも明らかであろう。

さて、大変厳しい締め切りだったけれども、どうにかこうにか間に合って、しかも、中々に満足いくものができあがった今、私は、十分二十分などというけちくさいことを言う必要がなく、思う様、落語やインク弄りを楽しむことができる立場である。天気も良いことだし、表に出て、心ゆくまで写真を撮ることだってできる

のである。なのに……なのに、どういうわけか、そんな気にならない。つまり、それはこういうことだろう。試験目前の中学生が、勉強を始めずに鉛筆を削ったり部屋を片づけたりする逃避行動と同じなのではないか、と。いや、違う、違う、違う。断じて違う。私は本当に落語が好きだし、インク遊びで手やシャツを汚すのが大好きなのであるし、そういう時間は本当に「幸せ」なのである。では、なぜ、私は、今の瞬間、そうする気にならないのだろうか。こんなことを考える。「幸せ」には絶対的な部分と相対的な部分があって、など。あるいは、福神漬はカレーの合間に喰ってこそ、など。または、私という人間は天の邪鬼なものでね、などと。落語やインク以上に無駄な考えを遊ぶのが好きの、などと。いやいや、そんなことではない。「幸せ」というものも、人間が日々ゆらゆらと変化を続ける以上、同じように揺れ動くもの、移ろいゆくものだよ

な、ということ。それは「不幸せ」に關しても同じことだし、その他諸々の、私たち人間という幻想に取り憑かれた生き物に關わる種々についても同じことだろうよ、と。

君が今不幸なら明日は幸せになるかもしれない。君が今幸せなら明日は不幸になるかもしれない。けれども、君が今幸せで、明日も幸せであるということも大いにありうる話だし、今日も明日も明後日も、未来永劫幸せである、ということだってありうるのである。ありうるのであるから、そう期待して生きる方がなんぼも増しな生き方やおまへんか、と。どやろ。何故、私は唐突に似非関西弁を使ってしまったのだからか。それは、こないな青臭いこと言ってもうて、ちびつと気恥ずかしいからなんや。

(全太)



# 万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>

**bar&kitchen kanna**  
 営業時間  
 平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00  
 日曜日 17:30~25:00  
 定休日  
 毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6 第1三宮ビル1F  
 Tel: 03-5343-1316

## bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、パーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。



Ken-ichi Shinozaki,  
 architect

Voice: +81-3-3220-0644  
 Facsimile: +81-3-3220-0640;  
 e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp  
 篠崎健一アトリエ

**編集後記**  
 からす新聞第八巻二頁(通巻第八六号)へ、無事、発行できました。  
 新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。  
 次号発行予定日は二〇〇六年三月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

**ファミマ**  
 中野区本町2-50-12 ドエル中野201号  
 03-3379-1451

宝仙寺  
 ファミマ  
 おうめかいどう  
 中野板上駅